

現役若手プロ野球選手「セカンドキャリア」に関するアンケート

2013年10月に宮崎にて開催されたフェニックスリーグ中に、現役若手プロ野球選手に対して、今回で7回目となる「セカンドキャリアに関する意識調査」を行いました。以下、集計結果をご報告いたします。アンケート回答者平均年齢が23.4才と若いことから、本調査があくまで「若手プロ野球選手の意識調査」と限定的な位置づけであることを前提に、内容をご確認ください。

対象：フェニックスリーグに参加した**12球団所属選手に配布。うち、239名回収(有効n数=239)**

調査方法：無記名によるアンケート配布・記入方式

属性：

・平均年齢：**23.4才**(18～30才)

18～22才 = 94名

23～26才 = 112名

27～29才 = 31名

30才～ = 2名

・プロ野球平均在籍年数：**3.4年**(1～13年)

・入団前履歴：高校53.4% 専門学校0.9% 大学28.0% 社会人15.9% その他1.7%

・2013年度平均年俸：**944.6万円**

・独身既婚比率：80.6%・19.4%

・主なポジション：

投手／46.4% 捕手／12.7% 内野手／25.7% 外野手／15.2%

※本調査の集計結果は、小数点第二位以下を四捨五入して表記しております。予めご了承ください。

【全体サマリ】

- i 「引退後に不安を感じている選手」は、全体の73.9%。直近3年は、70.0%→71.5%→73.9%と上昇傾向にある。
- ii 「不安」の内訳は、進路と収入で90.5%。高年俸が将来の不安を払しょくするわけではない。
- iii 引退後の進路として、「野球指導」の道を挙げる選手は、引き続き多い。
「大学・社会人の野球指導」「高校野球指導」「Jrアカデミー等子供の指導」「プロ野球監督コーチ」、すべての「指導者」の Kategorie で「やってみたい」「興味ある」と答える選手の割合が増加した。
- iv プロアマの垣根を低減する試みである「学生野球資格回復研修会」は、概ね認知されており、引退後に受講を希望する選手は71.9%にのぼる。

2014.1

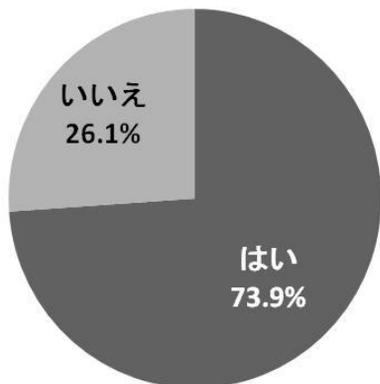
一般社団法人日本野球機構 NPBセカンドキャリアサポート

■集計結果

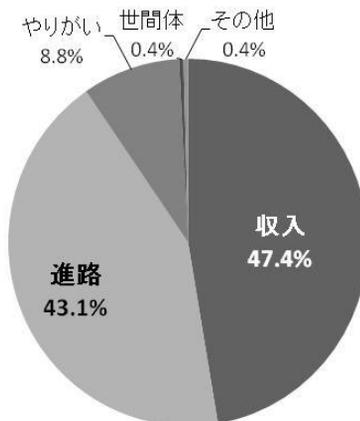
①「現役後」の意識について

【設問】 現役引退後の生活に、不安を持っていますか？ 不安があるとすれば、どれはどのような点ですか？

【図1】不安の有無



【図2】不安の要素



73.9%の選手が、引退後の生活に対して不安を感じている。【図1】

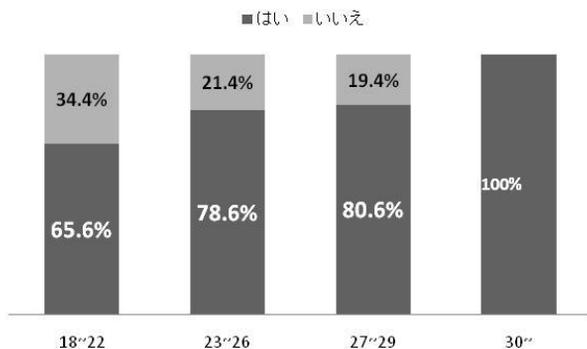
この数値は、大きく変動はしていないが、ここ3年ほどは、70.0%→71.5%→73.9%と上昇傾向にある。

「不安がある」と答えた選手に、不安を感じる理由を聞いてみた(複数選択)。収入面と進路面での不安を挙げる人で、あわせて90.5%【図2】。収入と進路が不安要素の大半を占めることに変わりはないが、昨年に比べると「収入」を挙げる選手の割合が「進路」を上回った。

元々少なかった「世間体」を不安要素に挙げる選手は、0.4%と初めて1%を切った(過去、3~5%で推移)。

引退後の選手がマスコミ等で取り上げられる機会が増えたため、引退そのものを恥じる心情が低減しているのかもしれない。

【図3】年代別不安有無

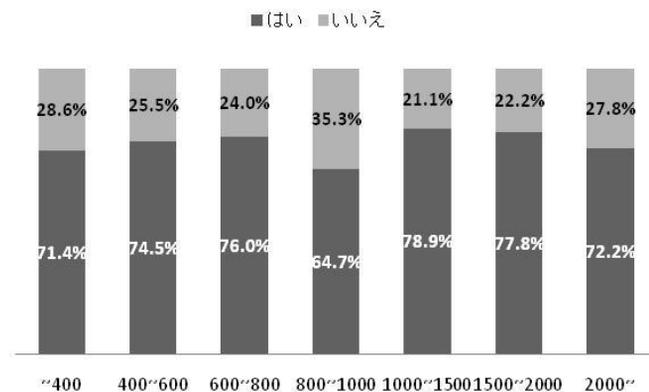


年齢が上がるとともに、「不安」と答える選手の割合が増加していく傾向にある。

一方、20才前後の若手選手に限ってみても、65.6%が「不安」と答えている。

加齢ではなく、年収との関係性を見てみたところ、1000万円以上の年俸を得ている選手でも「不安」を感じている。

【図4】年俸別不安有無



年俸2000万円以上の選手で「不安」と感じている人の不安要素を見てみたところ、「進路」ではなく「収入」を挙げている人の方が多いことから、現年俸の高さが不安払拭につながっているわけではないと思われる。

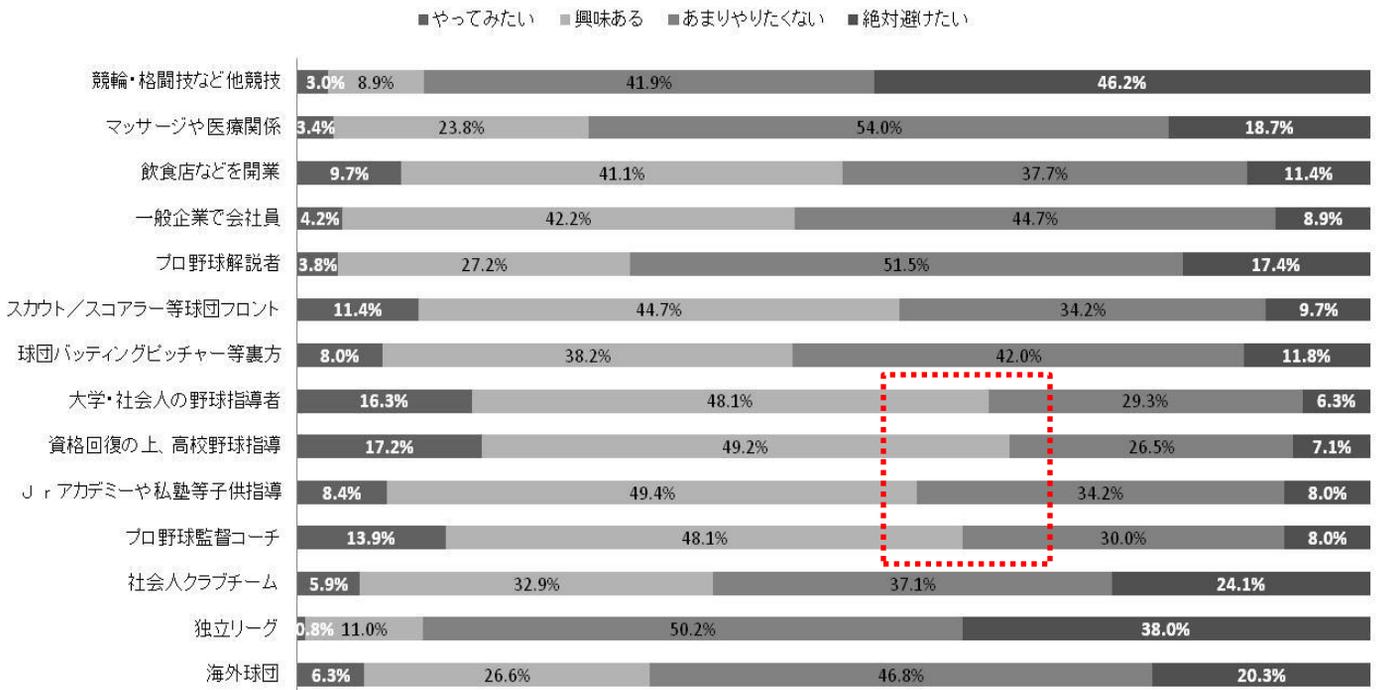
NPBが現役選手向けに発行している「キャリアサポートマガジン: NEW BALL」では、無駄遣いを控えて貯蓄をすることが重要、といったお金の大切さを訴えていたが、こうした試みは今後も大切だと認識している。

■集計結果

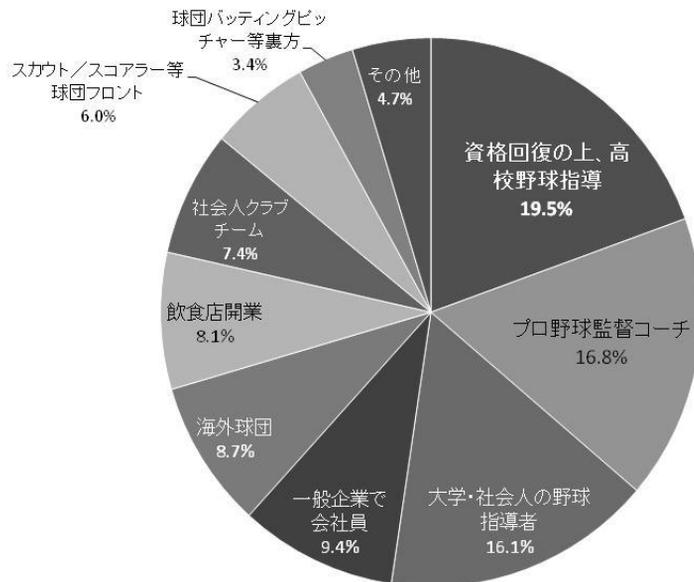
②引退後の職業意識について

【設問】プロ野球選手を引退した後、どのような仕事をしてみたいと思いますか？ それぞれの仕事に対して、当てはまる気持ちに○をつけてください。

【図5】引退後の仕事



【図6】引退後、一番やってみたい仕事



従前の調査同様、引退後の職業として「指導者」を選ぶ選手が多い。

昨年度の調査と比較すると、「大学・社会人の野球指導者」「高校野球指導」「Jrアカデミー等子供の指導」「プロ野球監督コーチ」の4つの指導者カテゴリーすべてで、「興味ある」「やってみたい」の比率が増加。指導者指向が強くなっている傾向にある。

特に、「資格回復の上、高校野球指導」を「やってみたい」と答えている選手の数が増加した。

後述する「学生野球資格回復研修会」を柱とする一連のプロ・アマ間の融和が、こうした意識に反映されている可能性がある。

図6の「一番やってみたい仕事」は、昨年トップだった飲食店開業（前回17.8%）が8.1%まで低下した（その理由は不明）。一方、「一般企業で会社員」が10%に迫る過去最高の割合となった。

他、フリーワードで上がっていた職業は以下の通り。

- ・大学職員／英語塾／留学
- ・物づくり／職人
- ・大型トラック運転手
- ・野球用品メーカー

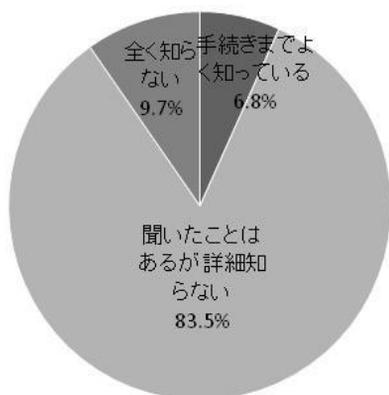
③学生野球資格回復研修会について

【設問】

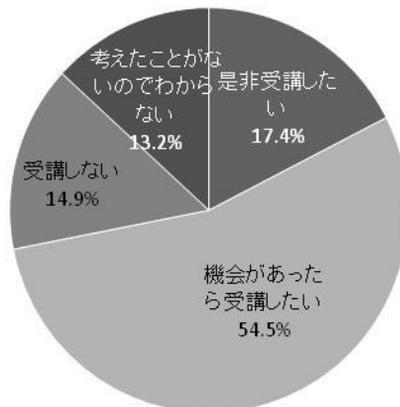
2013年、プロ・アマ双方が主催する研修会（学生野球資格回復研修会）を受講すれば、プロ野球経験者が学生（高校生）の野球指導に携わることが可能となりました。

1.あなたは、この制度が今年新設されたことをご存知でしたか？

【図7】



2.引退後、学生野球資格回復研修会を受講して、高校生の野球指導に携わりたいと思いますか？ 【図8】

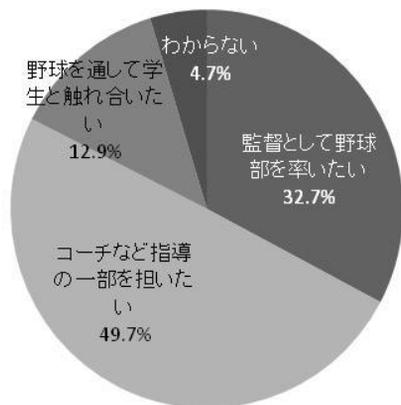


「全く知らない」と答えた選手は10%を切っており、制度が新設された事実は相応に認知されているといえる。また、「是非受講したい」「機会があったら受講したい」と答えている選手が71.9%にのぼっており、興味関心の高さがうかがえる。

一方、来シーズンに備えて秋季リーグに参加している若手、というアンケート回答者の状況を考えると、13.2%が「考えたことがないのでわからない」と答えているのも理解できる。

3.「是非受講したい」「機会があったら受講したい」にチェックした方にお聞きます。

あなたは資格回復後、どのような形で高校野球に関わりたいですか？ 【図9】



単に学生と触れ合う機会というよりも、指導者として携わりたい思いが強いようで、「監督として」「コーチとして」が合わせて82.4%。

一方、「学生野球資格回復研修会を受講しない」と答えた選手にその理由をフリーワードで聞いたところ、以下のコメントが寄せられた。

■指導に興味がない

- ・教える立場は好きではない／高校野球の指導に興味はない、等

■野球への携わり方

- ・野球をやめてまで野球をしたくない、等

■その他

- ・すでに教員免許を持っているので、必要がない
- ・野球以外の世界も知っておく必要があると思うから
- ・高校野球は休みがないから、等

学生野球資格回復研修会の存在はある程度認知されているので、今後は、制度詳細の理解浸透、また、「資格回復後の実際」や、現役時から必要な備えといった、よりリアリティのある情報を提供していく必要があると思われる。